

新年のご挨拶

健康づくり事業の推進や重症化予防で 医療費の適正化を図ります



理事長
杉 時夫

あけましておめでとうございます。

被保険者ならびにご家族のみなさまにおかれましては、清々しい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、平素より当組合の事業運営に対し、多大なるご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

当組合は、昭和42年の設立以来、みなさまの健康の保持増進のために、半世紀にわたり各種給付や健診事業等を実施してまいりました。おかげさまで、本年5月には設立50周年を迎えることとなりますが、昨今の経済情勢の変化や高齢化社会の到来による医療費の増大など、厳しい財政状況にもかかわらずここまで継続してこれら実施したことは、被保険者・被扶養者のみなさまのご努力の賜と重ねてお礼申し上げますとともに、引続き組合の事業を積極的に活用されますようお願い申し上げます。

さて、平成27年の日本人の平均寿命は男性80・79歳、女性87・05歳となり、ともに過去最高を更新しました。男女ともに平均寿命が延びたことは喜ばしいことですが、介護等を必要としない自立した生活ができる「健康寿命」との差は、男性で約9年、女性で約12年あり、この間に費やされる医療や介護などの社会保障にかかる費用も膨大な額となっています。健康保険組合等の被保険者は、高齢者医療を支えるための費用として納付金等を拠出していますが、平成27年度の当組合における納付金等の拠出金額は、保険料収入の約4割にあたる68億円に達しております。健康保険組合連合会では高齢者医療の負担構造改革の実現、税を原資とした公費投入を求めています。現役世代の負担軽減につながる道筋はみえてこないのが実情です。

このような情勢のなかで、保険者としての取組みの基本は医療費適正化であり、みなさまに対する健康づくり事業の推進や重症化予防といえます。国では健康寿命の延伸に向けた取組みを進めていますが、当組合においても従来の生活習慣病予防としての特定健診・特定保健指導とあわせて「データヘルス計画」を推進し、平成30年度からの第2期データヘルス計画の策定に向けた各種事業の見直しに取組んでまいります。また、昨年からは始まっているマイナン